

2023年日本のうたごえ 西日本郷土講習会

ふるさとを守る郷土の唄や踊り・和太鼓を生きる力に！
日本のうたごえ祭典 in 北海道 (8/25) 野外フェス に「風の太鼓」で参加しよう！

A コース 和太鼓 (長胴・附締)

講師 三浦恒夫



創作太鼓 風の太鼓

(作調:三浦 恒夫、作調協力:東日本郷土実行委員会)

☆日本のうたごえ祭典in北海道 野外フェスティバル「郷土合同」で初演

B コース 民舞

講師 塩原良



民舞 八木節・吉祥開運長熊手踊り

日時 4月29日(祝・土) 12:30~30日(日) 15:00

会場 こうべ輪太鼓センター会館 JR 兵庫駅から南に徒歩 8 分/右図参照



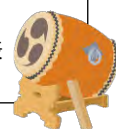
◆募集定員(全体50~70名)

- A 風の太鼓◆中太鼓・締太鼓コース:30~40名
 - B 民舞・八木節&熊手踊り(お囃子 CD は当日会場で販売・要事前申し込み):20~30名
- ※会場の関係等で定員が一部変更になる場合があります。

◆受講料

- 一般13,000円 ■協議会加盟12,000円 ■中・高校生9,000円 ■小学生8,000円
- * 1日参加の場合は、一般9,000円、加盟8,000円、中・高校生6,000円、小学生5,000円
- * 宿泊希望の場合は事務局まで早めに申し出て下さい。(実費)

1日目・4/29(土)
12:00 受付開始
12:30 開講・全体会
13:00 コース別講習Ⅰ
17:00 講習会終了
18:00 「和太鼓・民舞コンサート&うたごえ」で交流
(講習会参加者は無料)
20:00 終了~自主交流
2日目・4/30(日)
12:30 昼食
13:15 コース別講習Ⅲ
14:30 全体会、成果発表
15:00 閉会



主催/日本のうたごえ全国協議会 協力/兵庫のうたごえ協議会

事務局/こうべ輪太鼓センター 〒652-0882 神戸市兵庫区芦原通2-1-23こうべ輪太鼓センター会館
TEL 078-685-3535 FAX 078-685-3536 e-mail:kobe@wadaiko-center.com

2023年『西日本郷土講習会』参加申込書

申込書	●氏名 (ふりがな)	●住所〒		●TEL
	●年齢 男・女			●FAX
	●受講希望コース (○で囲んでください)	●バチ _____ 組	●和太鼓・民舞経験 有(年)・無	●宿泊 要・不要
	A B	●踊り CD _____ 枚		●申込日 年 月 日
		●熊手 _____ 組		●受付日 年 月 日

和太鼓専科「風の太鼓」講習会参加へのおさそい 講師／三浦恒夫

東日本大震災から12年がたちました。この間、たくさんの和太鼓の仲間たちが被災地をおとずれ、演奏だけでなく復興作業やボランティアの活動もしました。

被災地岩手県大槌町に風の電話という電話があります。それは海の見える丘の上、白い電話ボックスの中にコードのつながっていない黒いダイヤル式の電話だといひます。コードがつながっていないから、相手の声を聞くことはできません。この電話を設置した佐々木格さんの詩を紹介しします。



写真: Wikipedia より

写真: Wikipedia より

「風の電話」 佐々木 格

人は皆過去を持ち
現在があつて未来がある
又その時々に出会いがあり別れがある
風の電話はそれらの人々と話す電話です
あなたは誰と話しますか
それは言葉ですか文字ですか
それとも表情ですか
風の電話は心で話します
静かに目を閉じ
耳を澄ましてください
風の音が又は浪の音が
あるいは小鳥のさえずりが聞こえたなら
あなたの想いを伝えて下さい
想いはきっとその人に届くでしょう

「風の太鼓」で伝えたいこと

風にのせて叩きたい私たちのふるさとの助け合いの心を風にのせて叩きたいふるさとの夢と希望と活力を「風の太鼓」は、被災した人々に思いを馳せ、東北の芸能にも学びながら、復活再生を願う明るく活力ある太鼓囃子です

- 🎐 風は雲よび 雲龍をよぶ
人は人よび みんな仲良く
- 🎐 空飛ぶ人よ あなたはどこへ
風にのりふるさとへ
愛しい子らの 布を織りに
- 🎐 鋤持つ人よ あなたはどこへ

この詩が「風の太鼓」の発想につながりました。詩の中の「電話」「人々」「言葉ですか文字ですか」「風の音波の音」「小鳥のさえずり」のフレーズに自分なりの言葉を当て

はめて読み直すと「風の電話」の世界が、自分により身近なものになるような気がします。一人一人の思いを込めて、太鼓と篠笛と歌にのせて皆さんと一緒に「風の太鼓」を創っていきたいと思います。皆さんの参加をお待ちしています。



民舞専科「八木節」「吉祥開運長熊手踊り」 講師／塩原良

■八木節 もともと、八木宿の盆踊りであったそうですが、歌が源太節になってから、唐傘を軽快に使うようになったそうです。終戦後、その持ち味の調子良さから、全国でブームを生みました。これによって様々な地域に八木節が普及されたのです。唐傘の他、菅傘、花笠、手踊りなどがあり、現在、群馬県桐生市の桐生まつりでは、ダンス八木節として新たな八木節踊りが年々工夫されています。八木節はいつの時代も、人々の心を前向きに活気づけてきました。さあ！八木節を踊って、また新しい息吹を起こして参りましょう！



■熊手踊り 長野県飯田市はお祝い事などに使われる水引が、全国生産量の70%を占めています。その水引をふんだんにあしらい、紅白の長い柄のついた熊手をダイナミックに振りながら、福舞い込めとばかりに踊ります。「よいさー、よいさ！」「一振り千両、二振り萬両、舞い込め舞い込めっと、舞い込め、舞い込めっと！」と愛でたい掛け声をかけながら、太鼓の響きと手拍子に乗せて、福を掻き集める所作が特徴です。長熊手は、踊り手が手作りしますが、熊手に何をあしらうかも、楽しみの一つです。

和太鼓・民舞コンサート&うたう会

講習会参加の団体(者)の出演募集中！

4/29(祝・土)18:00~20:00

こうべ輪太鼓センター会館

参加費1,500円(講習会参加者は無料)

